

決算説明資料

2021年3月期

株式会社ユビキタスAIコーポレーション

代表取締役社長 長谷川 聡

2021年5月14日

© 2021 Ubiquitous AI Corporation. All rights reserved.

This presentation is for informational purposes only. Ubiquitous AI Corporation makes no warranties, express or implied, in this summary.



Index

- 2021年 3 月期業績の概要
- セグメント及び製品分野別動向と取り組み
- 2022年 3 月期の業績予想と重点取り組み
- トピックス

2021年3月期 業績の概要

2021年3月期の概況

業 績

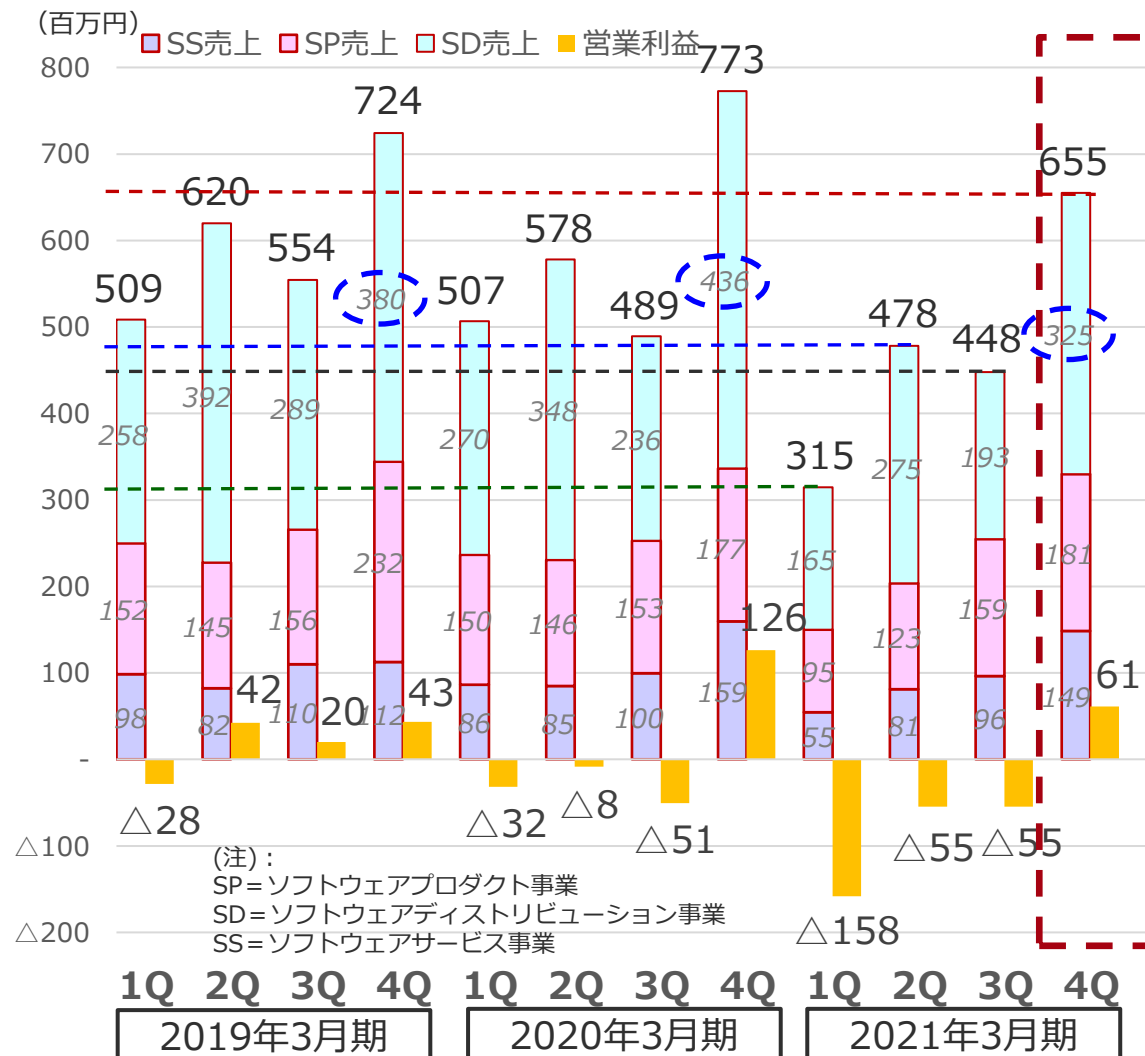
- ・ コロナ禍の影響を受け売上高・営業利益ともに減少
 - 連結売上高 : 1,905百万円 (前年同期比 18.8%減)
 - 連結営業損失 : 206百万円 (前年同期 営業利益35百万円)
- ・ ソフトウェアディストリビューション事業に関する、のれん減損損失として特別損失106百万円を計上、当期純損失426百万円

セグメント別概況

ソフトウェアプロダクト事業	売上高	556百万円	高速起動は車載機器関連のロイヤルティ売上が減少、コネクティビティ&セキュリティは自社製品開発注力、一部受託開発をソフトウェアサービス事業へ移管したことで売上減
	営業利益	9百万円	
ソフトウェアディストリビューション事業	売上高	968百万円	自動車関連がコロナ禍及び商材消失の影響で売上減、その他も新規案件、品質向上支援ツール利用抑制等を中心にコロナ禍の影響を受け売上大幅減
	営業損失	214百万円	
ソフトウェアサービス事業	売上高	380百万円	車載機器関連のコンテンツライセンスがコロナ禍の影響で売上減、顧客予算縮小による受託開発案件消失などの影響で売上減
	営業損失	1百万円	

コロナ禍の業績への影響

【参考】四半期 連結業績推移



第4四半期業績への影響

車載機器関連

- 自動車販売台数の推移（4-6月大幅減、7-9月回復、10-3月増）に伴い、採用済み製品のロイヤルティは回復

新規案件

- ディストリビューション事業で従来発生する年度末引き合いが、限定された営業活動の影響もあり低調

その他

- 年度末前払いロイヤルティ需要がコスト抑制の影響で発生せず

通期業績への影響

車載機器関連

- ロイヤルティは2Q以降回復基調となり、下期は回復したものの、1Qの減少分及び新規案件、品質向上支援ツール関連はコロナ禍の影響を受け減収要因に

新規案件

- 通期で回復出来ず、特にソフトウェアディストリビューション事業に大きく影響

その他

- コロナ禍による1Qの大幅減、限定された営業機会、顧客のコスト抑制が収益に大きく影響

前年同期比:セグメント及び製品分野別売上高

(単位:百万円)

セグメント	分野	前年同期 (連結)	2021/3期 (連結)	増減率
ソフトウェアプロダクト事業	コネクティビティ&セキュリティ	127	94	△25.9
	高 速 起 動	412	381	△7.4
	デ ー タ ベ ー ス	86	80	△7.5
	小計	626	556	△11.2
ソフトウェアディストリビューション事業		1,290	968	△24.9
ソフトウェアサービス事業		430	380	△11.6
合計		2,346	1,905	△18.8

前年同期比:セグメント別売上及び利益

(単位:百万円)

		前年同期 (連結)	2021/3期 (連結)	増減額
ソフトウェアプロダクト事業	売上高	626	556	△69
	セグメント利益	31	9	△21
ソフトウェア ディストリビューション事業	売上高	1,263	968	△295
	セグメント利益	※1 3	※1 △214	△218
ソフトウェアサービス 事業	売上高	423	380	△42
	セグメント利益	※2 0	※2 △1	△2

※1 旧株式会社エーアイコーポレーションの株式取得に関して生じたのれんの償却額 106百万円を含めております。

※2 株式会社エイムの株式取得に関して生じたのれんの償却額 103百万円を含めております。

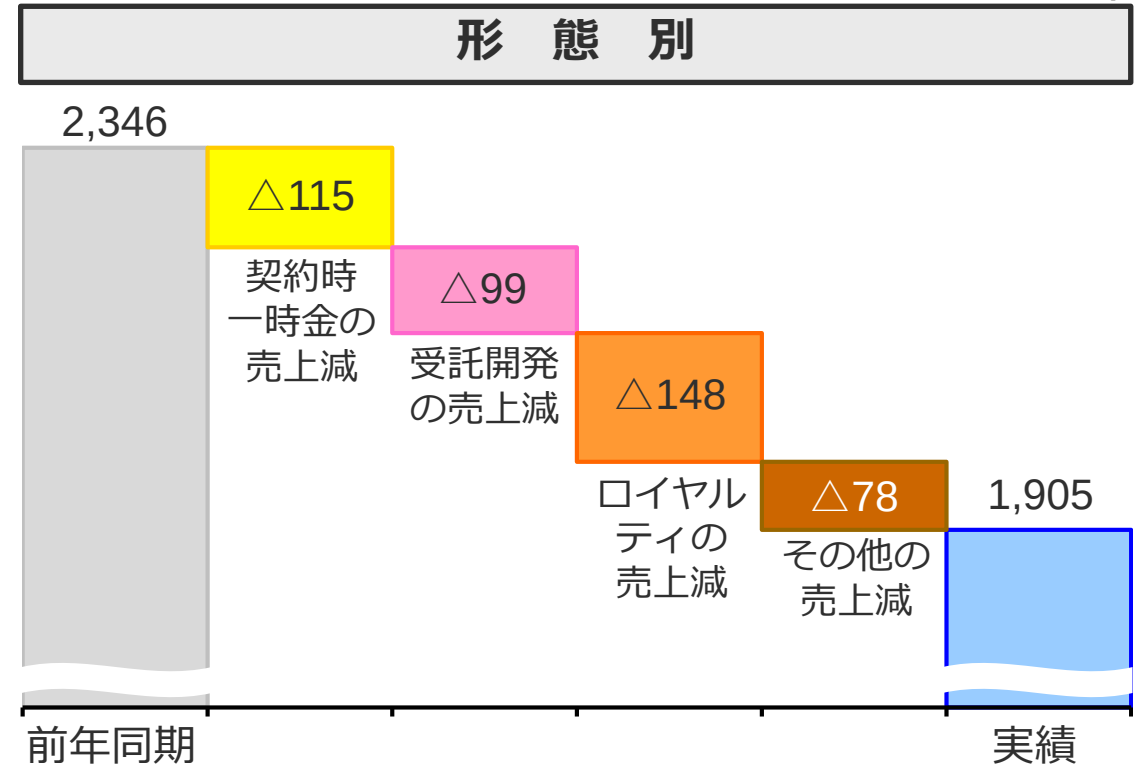
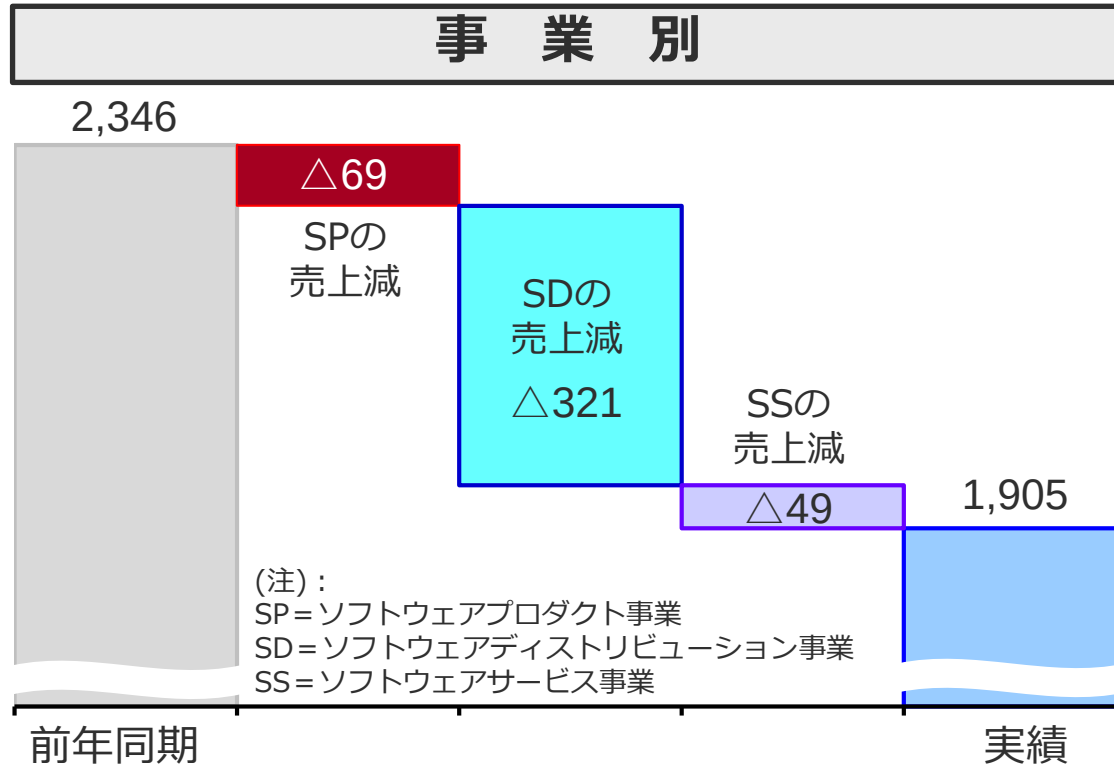
前年同期比:セグメント別売上及びのれん償却前利益

(単位:百万円)

		前年同期 (連結)	2021/3期 (連結)	増減額
ソフトウェアプロダクト事業	売上高	626	556	△69
	セグメント利益	31	9	△21
ソフトウェア ディストリビューション事業	売上高	1,263	968	△295
	セグメント利益	110	△108	△218
ソフトウェアサービス 事業	売上高	423	380	△42
	セグメント利益	104	102	△2

前年同期比：売上高

(単位：百万円)

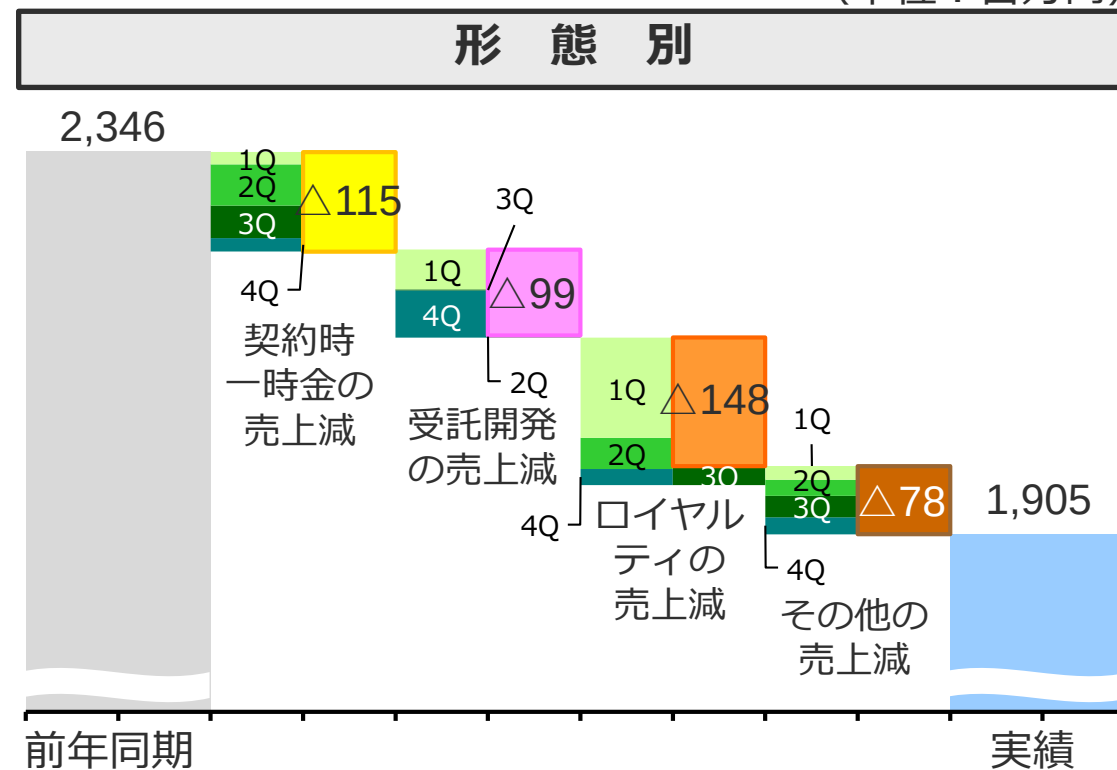
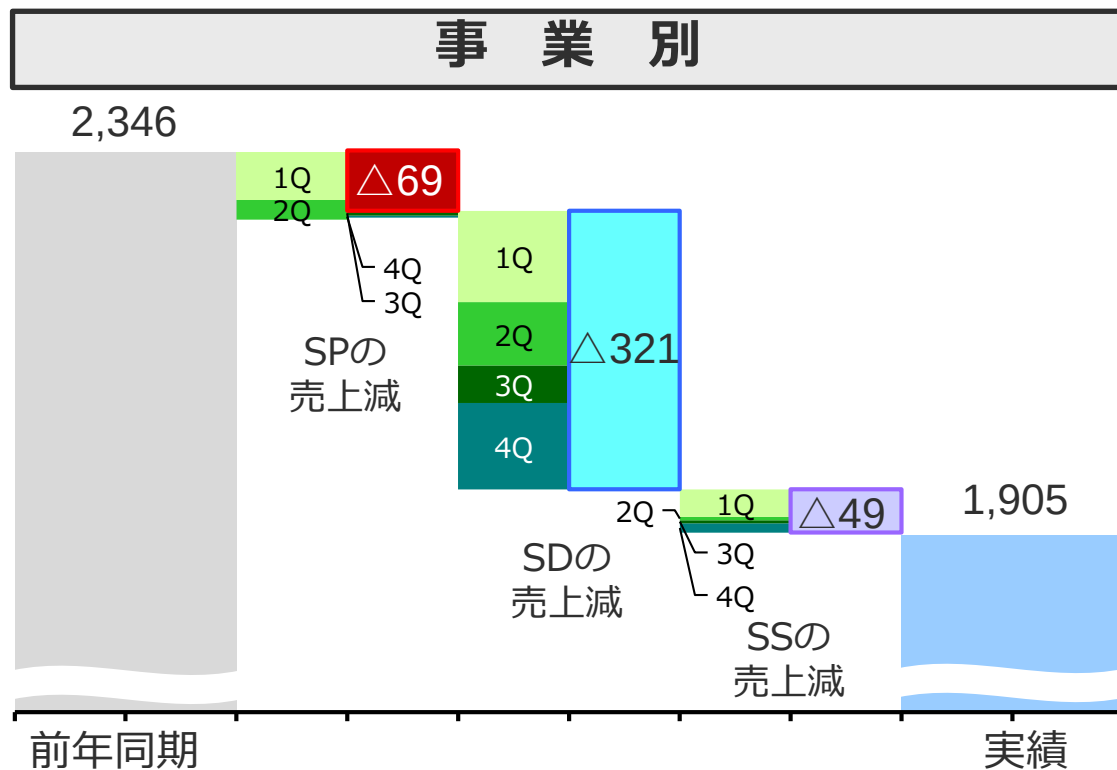


■ 前年同期比 売上高：減少

- SP事業： 全般的に売上減、高速起動は車載機器関連、コネクティビティ&セキュリティは受託開発減が大きく影響
- SD事業： 全般的に売上減、コロナ禍と商材消失による自動車関連売上減が大きく影響、その他の売上もコロナ禍が影響
- SS事業： 全般的に売上減、コロナ禍の影響による車載機器関連のコンテンツライセンス、受託開発案件に影響

前年同期比：売上高（Q別）

（単位：百万円）

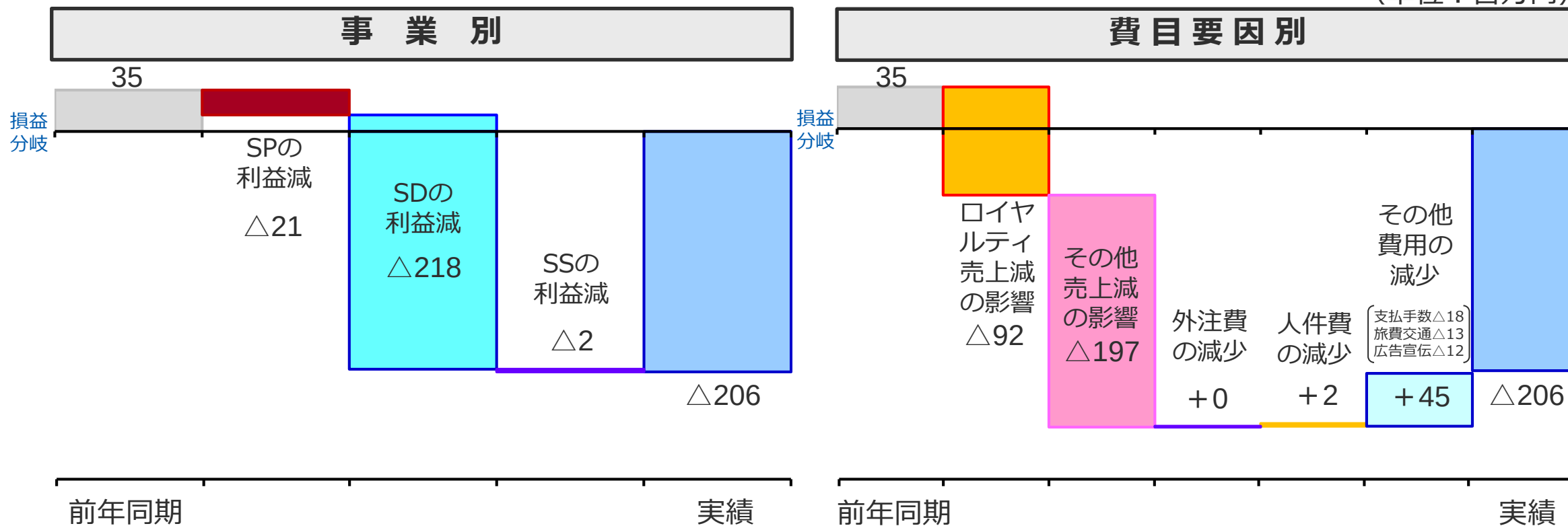


■ 前年同期比 売上高：減少

- SP事業： 3Q以降は、ロイヤルティ等の復調等により増加となるが、1Q・2Qの減少の影響を受ける
- SD事業： 契約時一時金、ロイヤルティ、サポート等（その他の売上）すべてにコロナ禍の影響を受ける
- SS事業： 2Qよりほぼ前年並みに回復、1Qの減少の影響を受ける

前年同期比：営業利益

(単位：百万円)

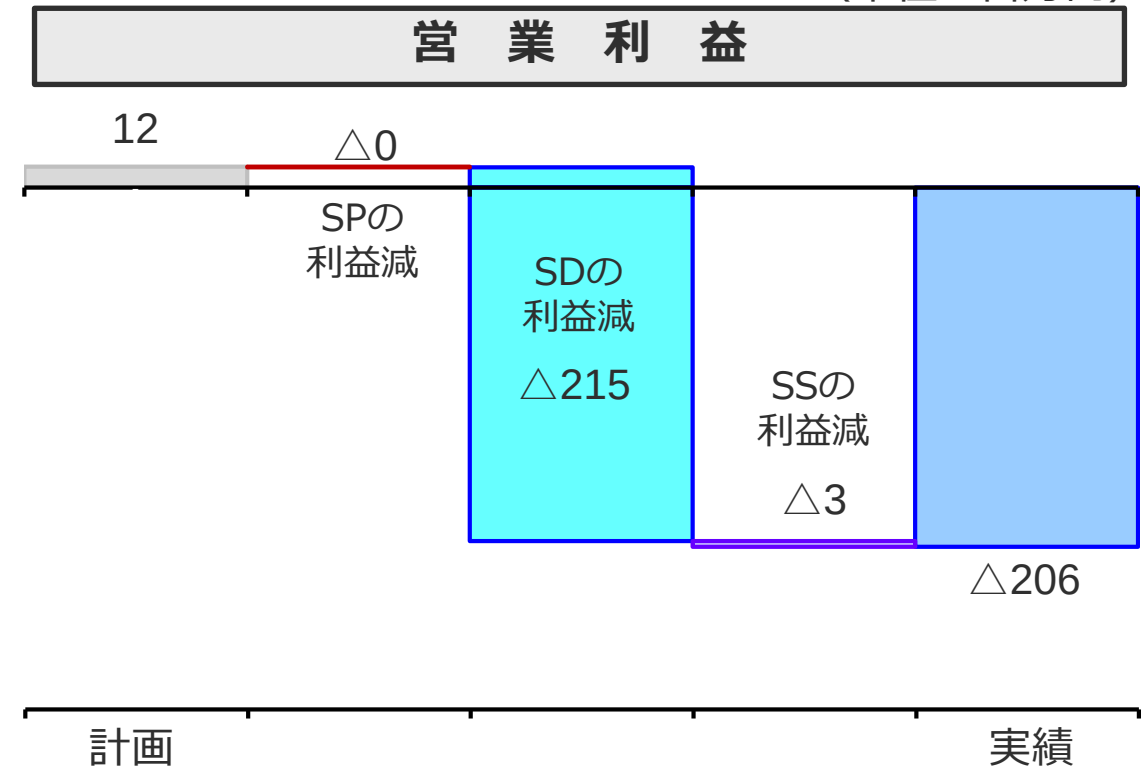
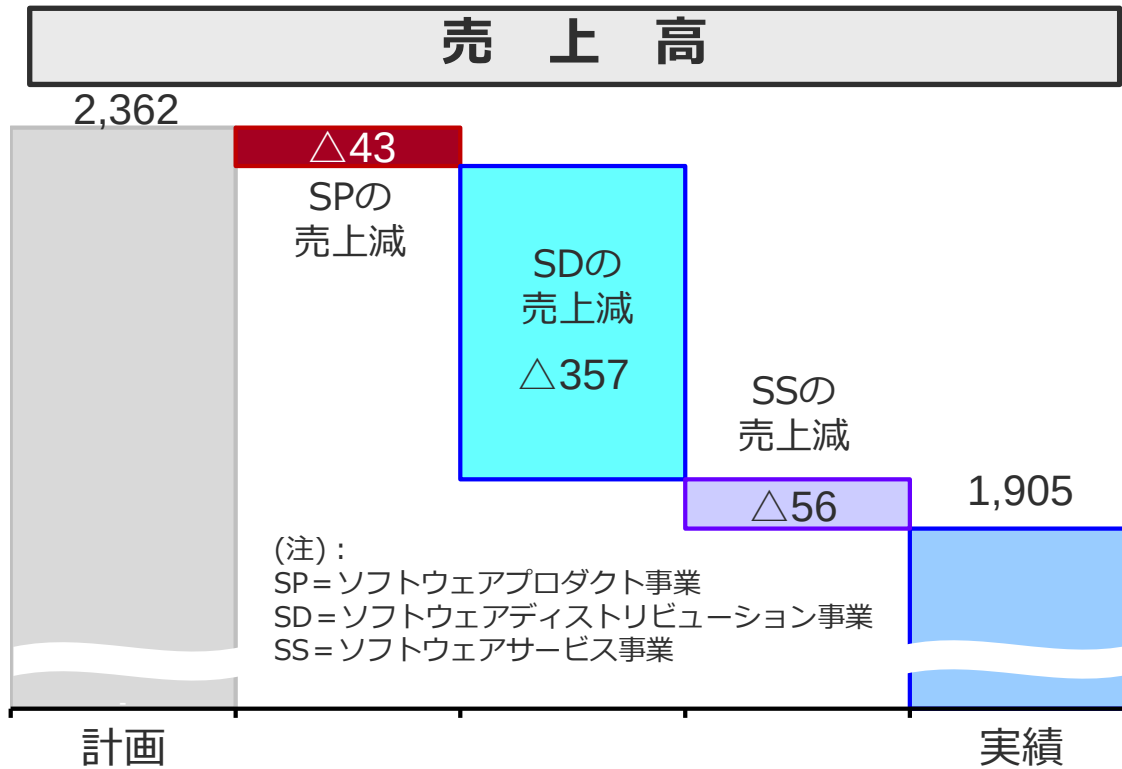


■ 前年同期比 営業利益：減少

- SP事業、SD事業、SS事業全体で売上減の影響により、営業利益が減少

計画比：売上高・営業利益（事業別）

（単位：百万円）

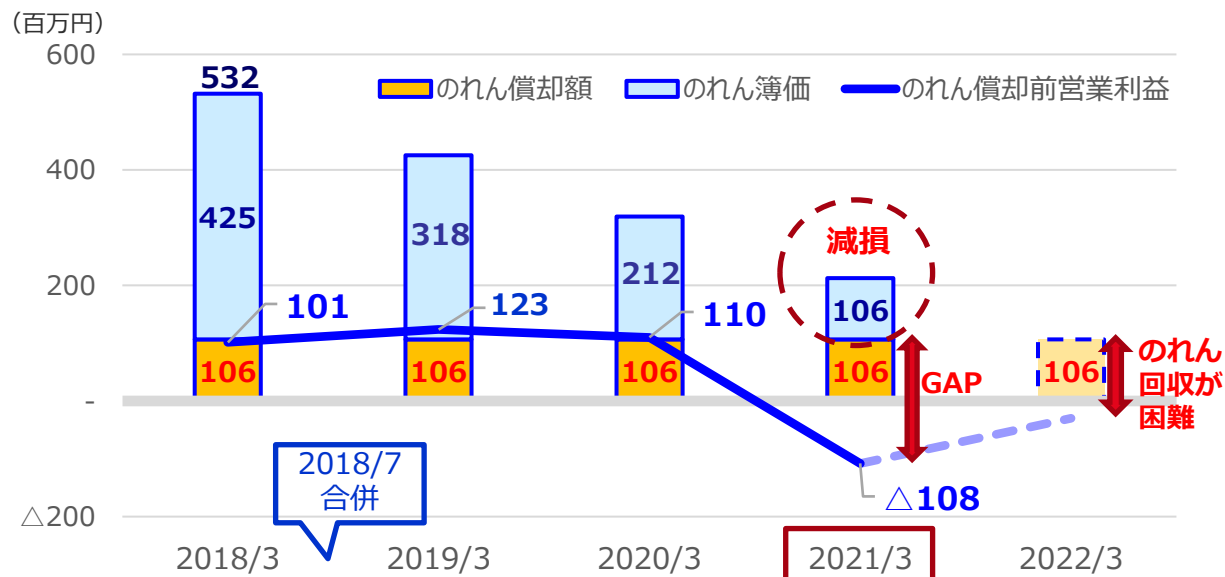


■ 計画比 売上高・営業利益：減少

－ 主にSD事業の売上減の影響により、営業利益が減少

のれん減損損失と当期純利益への影響

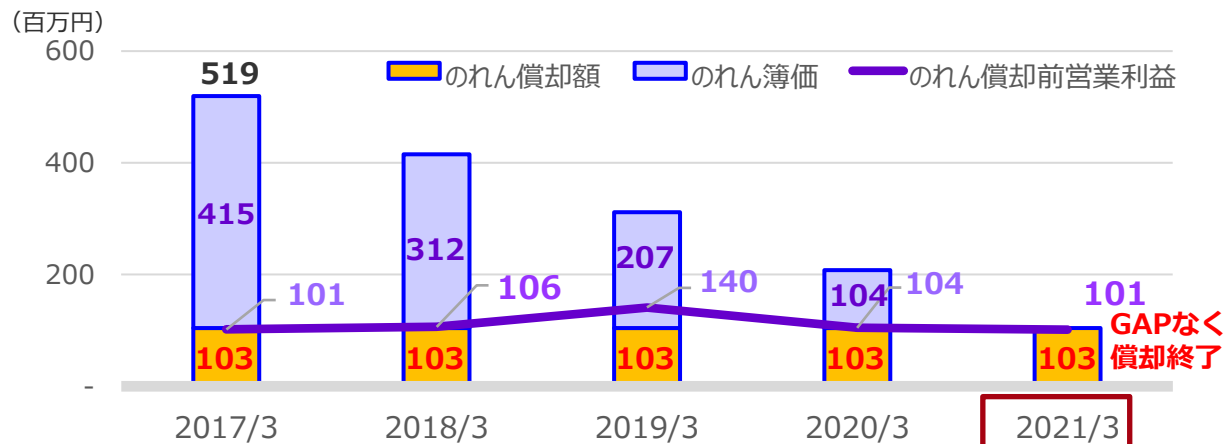
旧(株)エーアイコーポレーションの のれん償却とのれん償却前営業利益の推移



■ のれん簿価106百万円を減損処理

- 合併した旧株式会社エーアイコーポレーション（現ソフトウェアディストリビューション事業）に関する、のれん減損損失として1億6百万円を特別損失に計上（連結・個別）
- 2017年4月の連結開始以降、2020年3月期までのれん償却額相当の営業利益を稼得してきたが、2021年3月期実績、及び新型コロナウイルス感染症拡大等の外部環境の悪化を踏まえ、今後の計画を見直した結果、当初想定していた収益が見込めないと判断

(参考) (株)エイムの のれん償却とのれん償却前営業利益の推移



■ 法人税調整額の増加

- のれん減損損失の計上と併せて、今後の課税所得減少により繰延税金資産が当初見込み額を下回ると判断し、法人税等調整額が増加（連結・個別）

[参考] 株式会社エイムの のれん 償却終了

- 株式会社エイムの のれん については、当初の予定どおりに、2021年3月期を以って償却を終了

連結損益計算書

(単位：百万円)

	2020/3期	2021/3期	増減	2021/3期 期初計画	増減
売上高	2,346	1,905	△441	2,362	△456
売上原価	1,226	1,061	△165	1,273	△211
売上総利益	1,119	843	△276	1,088	△245
販管費	1,084	1,050	△34	1,076	△26
営業利益	35	△206	△241	12	△218
営業外損益	3	4	0	-	4
経常利益	38	△202	△241	12	△214
特別損益	-	△106	△106	-	△106
法人税等	△38	118	156	58	60
当期純利益※	77	△426	△503	△46	△380

※当期純利益：親会社株主に帰属する当期純利益

連結貸借対照表（資産の部）

（単位：百万円）

	2020/3月末	2021/3月末	増減
現金・預金	934	828	△106
受取手形・売掛金	740	676	△64
有価証券	800	800	-
棚卸資産	0	5	5
前払費用	59	46	△13
その他流動資産	27	56	29
流動資産	2,563	2,414	△148
のれん	316	-	△316
その他固定資産	397	393	△4
固定資産	714	393	△321
資産合計	3,277	2,807	△469

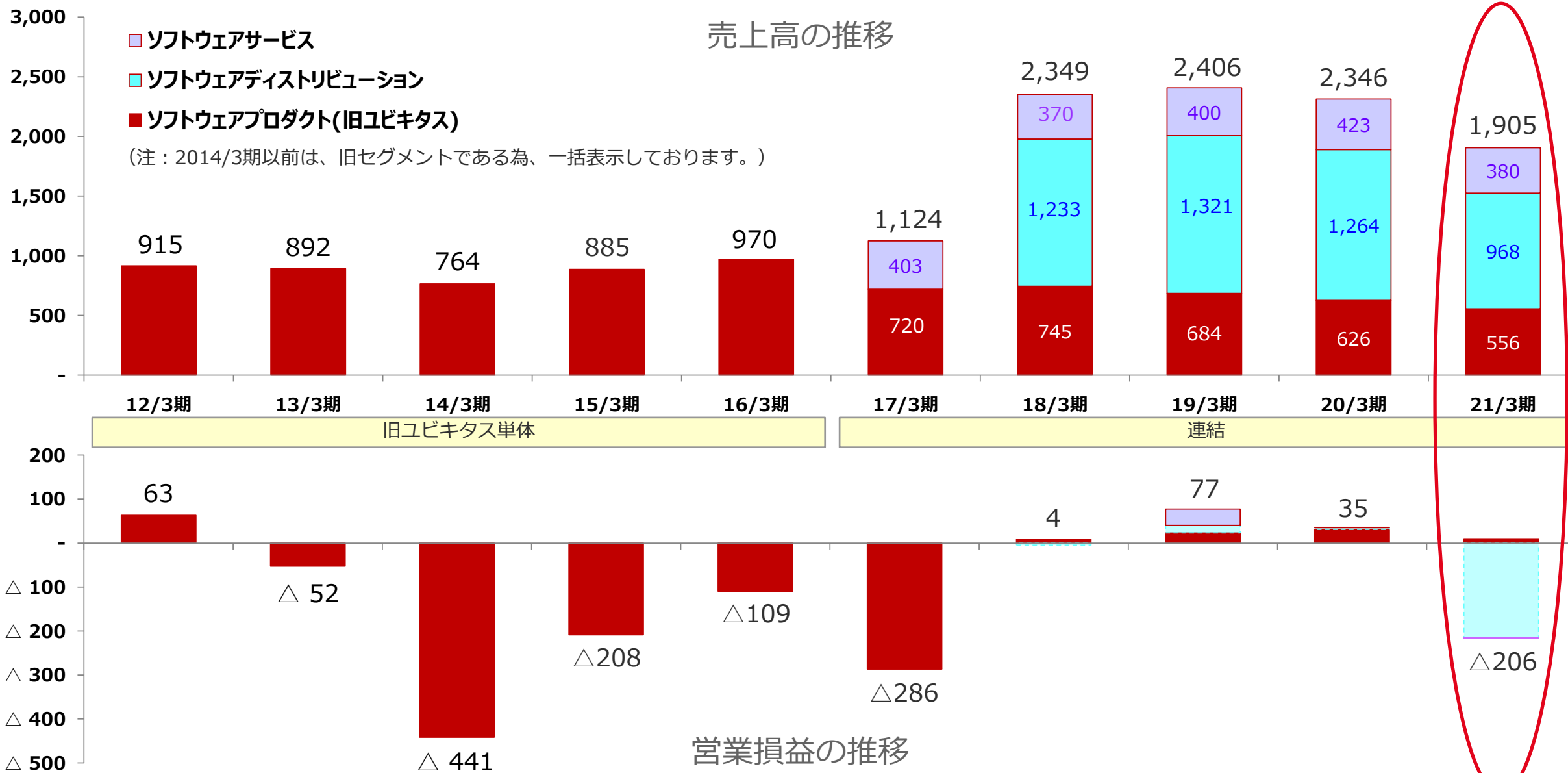
連結貸借対照表（負債・純資産の部）

（単位：百万円）

	2020/3月末	2021/3月末	増減
買掛金	160	131	△28
未払金	38	47	9
前受金	91	73	△17
その他流動負債	92	46	△46
流動負債	382	298	△84
固定負債	82	80	△1
資本金	1,483	1,483	-
資本剰余金	1,453	1,453	-
利益剰余金	△159	△586	△426
その他純資産	35	78	43
純資産	2,812	2,429	△383
負債・純資産合計	3,277	2,807	△469

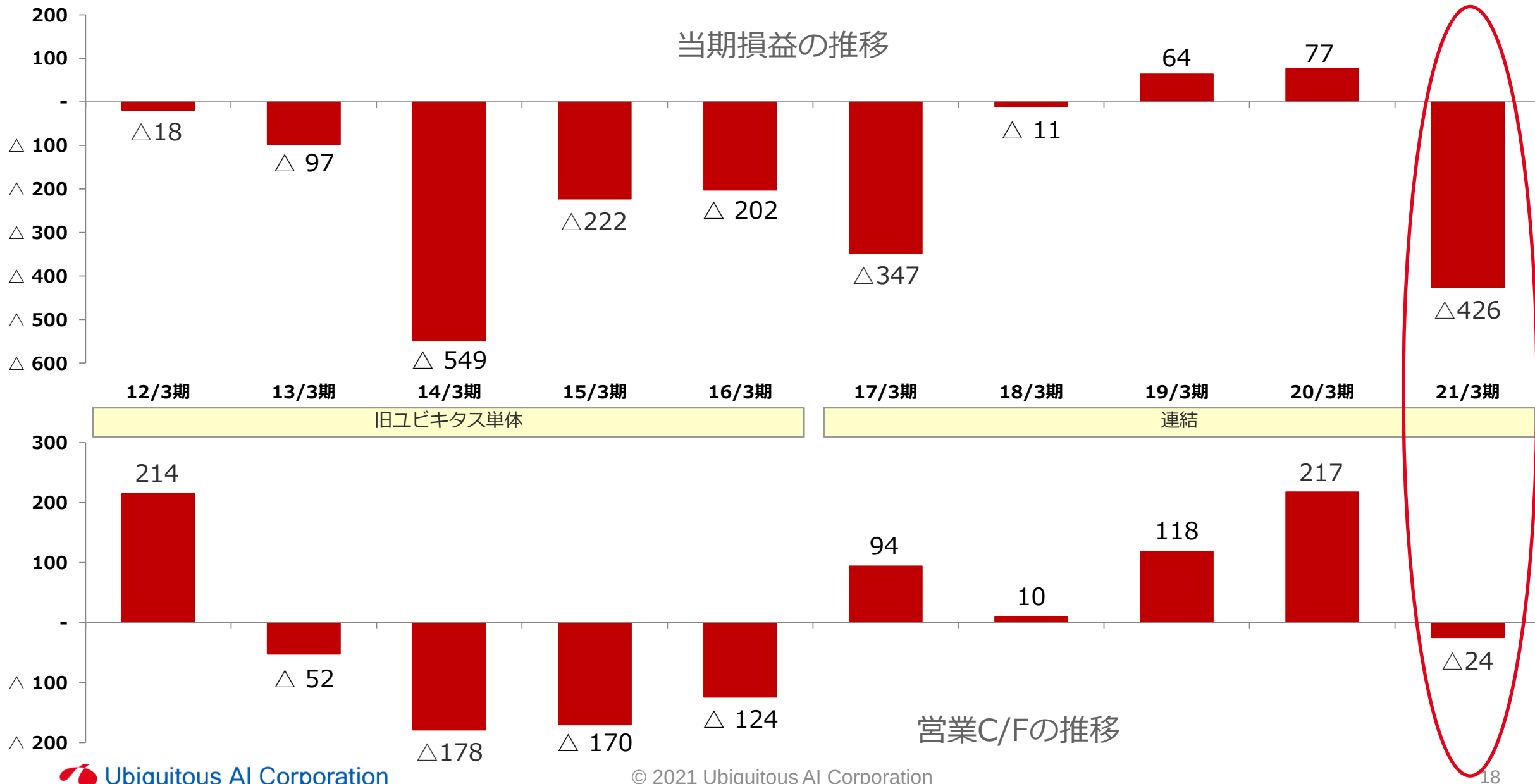
売上高・営業損益の推移

(単位：百万円)



当期損益・営業C/Fの推移

(単位：百万円)



修正中期経営目標に対する結果

ユビキタスAIコーポレーション グループ 組込みソフトウェアNo.1ベンダーへ



※ 売上高（営業利益）
単位：百万円

2020年3月期
計画：2,419(10)
実績：2,346(35)

- 2021/3期以降の収益増実現のための施策実施（採用・商材獲得・研究開発）
- Edge Trust等新規取り組みのビジネス機会創出
- 事業間シナジー（組み合わせ提案、エンジニアリング連携、海外パートナーとの共同開発案件発掘）

2021年3月期
計画：2,362(12)
実績：1,905(△206)

- 高速起動製品の海外市場本格取組による来期以降の売上実現
- 商品ライフサイクルの変化と商材消失に伴う事業基盤の強化

2022年3月期
目標：2,500(120)

- 高速起動製品の海外売上拡大による2023/3期以降の収益貢献実現
- エイム社の、のれん償却終了に伴う営業利益面の寄与と営業黒字増
- 商品ライフサイクル対応による2023/3以降の収益貢献への目処

2025年3月期
売上高3,000百万円
営業利益率10%以上
を目指す

テクノロジートレンドを意識した新製品開発・新商材獲得

5G

CASE

IoT

Cloud

AI

Robotics

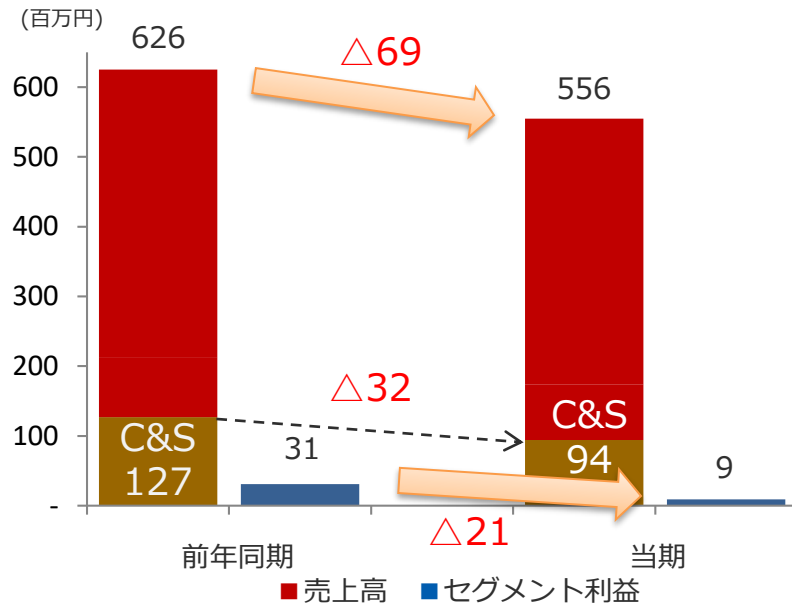
2020/3期、2021/3期：収益の安定化と次の成長に向けた取り組み
2022/3期：新規取り組み事業の利益貢献

海外パートナーとの共同開発による短期間かつコストを押さえた製品投入

IoTセキュリティ検証サービス、「Edge Trust」等パートナー連携によるサービスの拡大

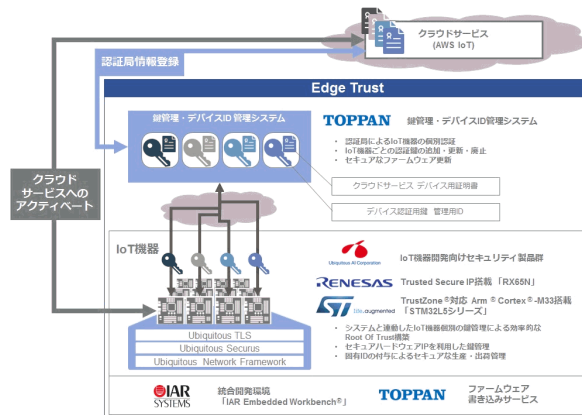
セグメント及び 製品分野別動向と取り組み

ソフトウェアプロダクト事業 コネクティビティ & セキュリティ関連



■ 当四半期概況

- 「Edge Trust」関連の半導体メーカーとの研究開発案件で売上を計上
- IoT機器へのセキュリティ実装関連の研究開発案件で売上を計上
- デジタルAV関連の既存顧客からのロイヤルティ売上を計上
- デジタルイメーシング関連の既存顧客からの受託開発売上を計上

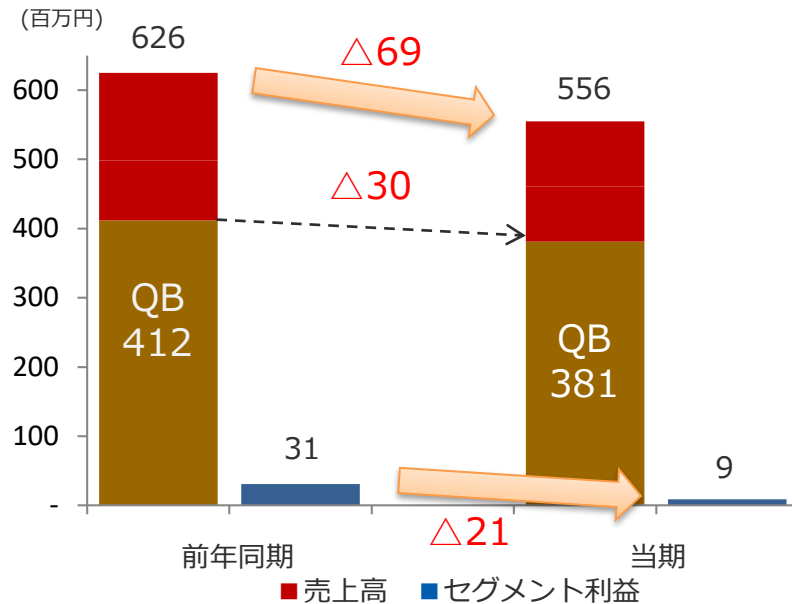


■ 取組方向性

- 「Edge Trust」を中心としたIoTセキュリティ分野での事業展開に注力、組み込みからクラウドまで、セキュアなIoTサービスを実現するために必要な幅広い分野のパートナーとの連携を強化
- 車載、産業、IoT分野を中心としたセキュリティ関連製品の拡販活動

※グラフは、ソフトウェアプロダクト事業全体の売上・利益と、コネクティビティ & セキュリティ関連のみの売上です。

ソフトウェアプロダクト事業 高速起動関連



■ 当四半期概況

- 車載機器関連、海外民生機器の既存顧客からのロイヤルティ売上を計上
- カーナビ等車載向け機器を中心に複数社との間で大・中規模案件の研究開発が継続中

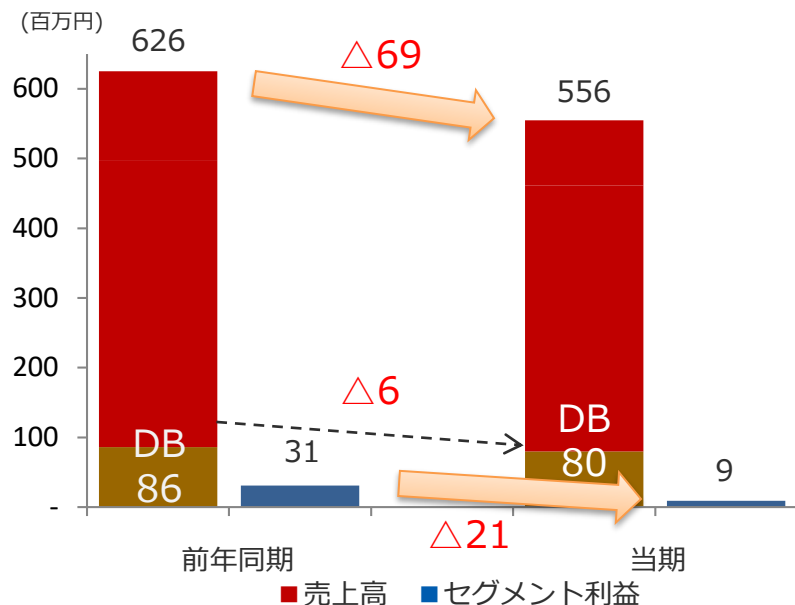
■ 取組方向性

- 海外市場向けの販売を強化
- 車載情報端末以外の車載機器向けの拡販を強化
- 電源断対応ファイルシステムや仮想化技術、セキュアブートなどの機能組み合わせなど付加価値の高いソリューション化、クロスセルを推進
- 次世代技術開発の継続



※グラフは、ソフトウェアプロダクト事業全体の売上・利益と、高速起動関連のみの売上です。

ソフトウェアプロダクト事業 データベース関連

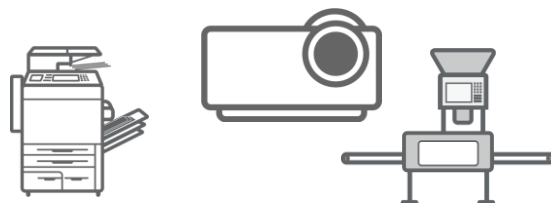


■ 当四半期概況

- 産業機器、車載機器の既存顧客からのロイヤルティ売上等を計上

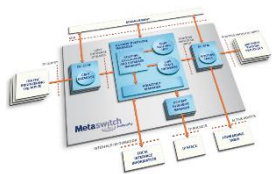
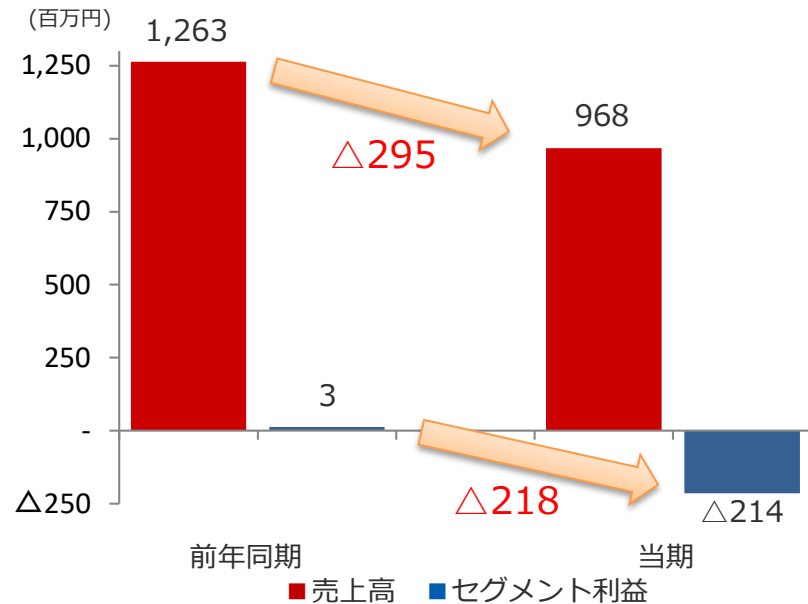
■ 取組方向性

- 既存顧客のサポートによる安定収益の確保
- 車載機器、OA機器、検査機器、産業機器などに向けた拡販



※グラフは、ソフトウェアプロダクト事業全体の売上・利益と、データベース関連のみの売上です。

ソフトウェアディストリビューション事業



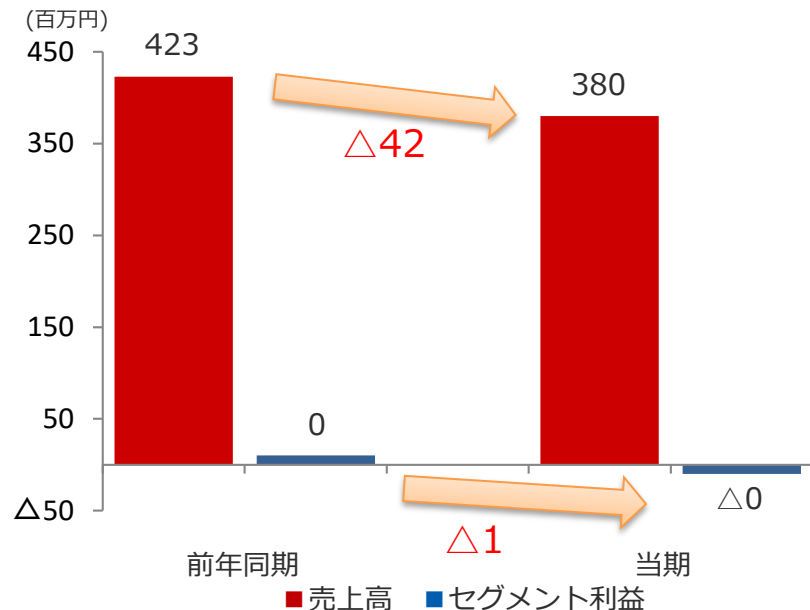
- *1 Insyde H2O: 「EFI/UEFI」仕様を実装したC言語ベースBIOS
*2 BlueSDK: Bluetoothプロトコルスタック
*3 CodeSonar: ソフトウェアの動作不具合、脆弱性をソースコードのコンパイル時に静的解析し、バグを検出するツール

■ 当四半期概況

- BIOS製品：ノートブックPCの既存顧客から「Insyde H2O *1」のロイヤルティ売上等を計上
- ワイヤレス製品：車載機器等の既存顧客から「Blue SDK *2」のロイヤルティ売上等を計上
- 品質向上支援ツール製品：車載機器、産業機器等の既存顧客から「CodeSonar *3」のライセンス売上等を計上
- その他、多数の取扱い製品より、新規、既存顧客からのロイヤルティ売上等を計上
- 自動車関連のツール取扱強化として、エー・アンド・デイ社と業務提携、車載システムソフトウェア開発用 シミュレーターを共同開発、2021年4月発売開始

■ 取組方向性

- コロナ禍による変化へのニーズに対応した製品・技術の発掘
- AI関連製品の製品取扱を強化（当期で6製品の新規取扱開始）
- 自動車関連の製品取り扱いを強化（当期で3製品の新規取扱開始）
- 市場性のある海外ベンダーの商権の獲得（当期で6社の新規商権獲得）
- 年間利用ライセンス契約により収益安定貢献の高いソフトウェア品質向上支援等のツール製品を重点的に販売促進



■ 当四半期概況

- 既存顧客からの各種受託開発売上を計上
- データコンテンツ「YOMI」に関する車載機器向けを中心としたライセンス使用料売上等を計上

■ 取組方向性

- 米Gracenote社との密な連携による既存収益の継続的な確保と、協業提案による新たな取り組み
- 既存顧客・パートナー案件に加え、グループの製品・顧客関連のエンジニアリングサービス案件を軸に、グループ全体での売上シナジー実現



YOMIデータの活用例：アーティスト名ソート

アーティスト表記	YOMI
さだまさし	サタマサシ
サザンオールスターズ	サザンオールスターズ
L'Arc-en-Ciel	ラルクアンシエル
松任谷由実	マツトウユミ

アーティスト表記でソート		YOMIでソート	
ソート順位	アーティスト表記	ソート順位	YOMI
1	L'Arc-en-Ciel	1	サザンオールスターズ
2	サザンオールスターズ	2	さだまさし
3	さだまさし	3	松任谷由実
4	松任谷由実	4	L'Arc-en-Ciel

2021年3月期 結果と中期課題・対策

事業分野		結果	課題と対策
ソフトウェア プロダクト事業	高速起動	Q1は自動車関連でコロナ禍の影響を受けたが、Q2以降はロイヤルティ売上を中心に主力製品として収益の柱に	次世代プラットフォーム対応、海外市場への積極的な展開による売上拡大の実現
	コネクティビティ	- 受託開発縮小、過去案件のロイヤルティ収入が縮小 - 車載AV関連（セキュリティ製品）の引き合い増加 - 新規取組の収益化が遅延	IoTセキュリティ関連、車載AV関連取組に注力
ソフトウェア ディストリビューション事業		- コロナ禍で顧客のコスト削減等が、新規案件やツール製品の売上等に大きく影響 - 主力商品は収益寄与したが期待商材が伸びず、コロナ禍での影響を受け売上大幅減	FY20の新規獲得商材、開発製品の販売を加速
ソフトウェアサービス事業		Q1は自動車関連でコロナ禍の影響を受けたが、Q2以降は回復し安定した収益を確保	規模拡大には開発人員の確保が必要、M&Aなども含めた施策を検討

2022年 3 月期の 業績予想と重点取り組み

新型コロナウイルス感染症等の影響による事業リスク

■ 経済状況・市場動向が影響するリスク

- コロナ禍における顧客企業の新規取組の停滞、費用支出抑制が影響するリスク
 - 2021年3月期は顧客企業の新規取組の停滞による新規案件の減少、コロナ禍の影響を勘案した費用支出抑制による開発支援ツールの売上が大きく影響、2022年3月期の売上に繋がる1-3月期の引き合いも低調のため、上期は売上への影響が出ることが見込まれる
 - 上期の引き合い状況次第で、通期で2021年3月期と同様の傾向となる可能性がある
- 半導体不足による顧客企業の調達への影響による製造ロイヤルティへ影響するリスク
 - 自動車向け半導体を中心に、半導体の調達に関する生産への遅延発生可能性が指摘されており、顧客企業への影響が製造ロイヤルティに影響する可能性がある

■ テレワークによる限定された営業活動が影響するリスク

- 展示会・セミナーなどの中止による露出・顧客獲得機会の減少が影響するリスク
 - 製品の性質上（デモによる実装例、目に見えない機能・性能・特徴の説明が有効）有効な顧客訴求機会が限定
 - 顧客の性質上（主に製品企画・開発部門が対象）、顧客担当者との直接接触機会が限定
- 新規顧客訪問機会の減少が影響するリスク
 - 新規顧客とのWeb会議などによる限定的なコミュニケーション機会、外部とのWeb会議が難しい顧客とのコミュニケーション機会減少

新型コロナウイルス感染症等の影響による事業リスク

■ 想定される2022年3月期収益への影響

- 新型コロナウイルス感染症の終息遅延により、各事業セグメントを通じて、2021年3月期と同様の可能性がある
- この数ヶ月でリアル展示会の開催が増えたが、大手企業を中心に来場・出展を控える傾向があり、引き続き限定された営業活動による新規案件獲得への影響も予想
- Q1の製造ロイヤルティに関しては、自動車生産の正常化に伴い、2021年3月期後半以降と同様の推移となることが予測されるが、半導体不足による影響が発生した場合、2021年3月期と同様の可能性がある

■ 2022年3月期事業計画及び現中期事業計画について

- 2022年3月期は2021年3月期の傾向が継続することを勘案し、中期事業計画の売上高を大幅に下方修正
- ソフトウェアディストリビューション事業においては、販売活動の変化に伴うオンライン中心の販促施策強化と広告宣伝費投下により、新規獲得商材・開発製品を中心に新規売上獲得に注力
- 営業利益は、ソフトウェアディストリビューション事業ののれん償却減とソフトウェアプロダクト事業・ソフトウェアサービス事業での利益計上を見込み、中期事業計画を下回るが、黒字化の実現を目指す

2022年3月期 連結業績予想

(単位：百万円)

	2021年3月期 (実績)	2022年3月期 (予想)	増減額
売上高	1,905	2,196	290
営業利益	△206	80	286
経常利益	△202	80	282
当期純利益(※)	△426	57	483

※：当期純利益：親会社株主に帰属する当期純利益

－ 2023年3月期以降の回復を目指した取組

- ・ 売上は中期事業計画に対し大幅減ながら前年比増、のれん減損処理に伴う償却額減により、営業黒字化を目指す
- ・ 主力の高速起動製品を中心としたソフトウェアプロダクト事業、車載機器向け「YOMI」ライセンス使用料と既存顧客を中心とした受託開発によるソフトウェアサービス事業の安定収益により利益を確保し、2021年3月期に獲得した新商材・新規開発製品によりソフトウェアディストリビューション事業での売上積み上げを狙う

2022年3月期 重点取り組み

ソフトウェアプロダクト事業 (コネクティビティ&セキュリティ、 組込みソフトウェア製品)

2022年3月期 売上高 620百万円

- 高速起動製品の次世代プラットフォーム対応、海外市場への積極的な展開による売上拡大の実現
- 更なる高速化に向けた研究開発等への取り組みと案件獲得のための人材獲得強化
- 自動車、IoT分野を中心とした組込み機器向けネットワーク、セキュリティ関連ソフトウェア製品展開を推進

ソフトウェアディストリ ビューション事業

2022年3月期 売上高 1,188百万円

- ソフトウェア品質向上支援ツールの販売強化継続、エー・アンド・デイ社との共同開発新製品「GSIL」、注目分野であるIoTセキュリティ関連製品「beSTORM X」とこれを活用した「IoT機器のセキュリティ検証サービス」販売に注力
- AI関連製品の商材強化と収益化の実現
- 2021年3月期までに新規獲得した新商材の販売強化、継続的な新商材確保による収益基盤強化

ソフトウェアサービス事業 (グループ企業：エイム社)

2022年3月期 売上高 420百万円
(内部取引含む)

- Gracenote社との協業関連継続と新規企画検討
- 既存顧客との取引を中心に、新規安定顧客の獲得による受託開発売上の確保

セグメント利益の算定方法変更

■ ユビキタスAIコーポレーション 2事業のセグメント利益算定方法を変更

－ 経緯

- ・ 旧株式会社エーアイコーポレーション合併（2018年7月）以降、共通部門の一本化を推進
- ・ 同社株式取得に係るのれん償却が終了し、株式取得時の収支体系維持が不要となったことによる

－ 共通部門費用を配賦

- ・ 共通部門費用－営業部門、マーケティング&コミュニケーション部門、管理部門の人件費及び部門費用
- ・ 配賦比率－2022年3月期の期初予算における売上・粗利等を考慮し、1：1の比率に是正

■ セグメント利益算定方法変更による影響額

(単位：百万円)

		前年同期（連結）			（連結）			増減額	
		従前の収支	共通部門 費を是正	新収支	従前の収支	共通部門 費を是正	新収支	従前の収支	新収支
ソフトウェアプロダクト事業	売上高	556		556	620		620	63	63
	セグメント利益	9	46	56	10	44	54	0	△2
ソフトウェア ディストリビューション事業	売上高	968		968	1,188		1,188	219	219
	セグメント利益	△108	△46	△154	△30	△44	△74	78	80
ソフトウェアサービス 事業	売上高	380		380	388		388	7	7
	セグメント利益	102		102	100		100	△2	△2

(注) 前年のセグメント利益は、比較利便性を考慮し、のれん償却前利益を表示し、配賦比率も2022年3月期と同率として算定しております。

前年同期比：セグメント別売上及び利益

(単位：百万円)

		前年同期 (連結)	2022/3期 (連結)	増減額
ソフトウェアプロダクト事業	売上高	556	620	63
	セグメント利益	56	54	△2
ソフトウェア ディストリビューション事業	売上高	968	1,188	219
	セグメント利益	※1 △261	△74	187
ソフトウェアサービス 事業	売上高	380	388	7
	セグメント利益	※2 △1	100	101

※1 旧株式会社エーアイコーポレーションの株式取得に関して生じたのれんの償却額 106百万円を含めております。

※2 株式会社エイムの株式取得に関して生じたのれんの償却額 103百万円を含めております。

前年同期比:セグメント別売上及びのれん償却前利益

(単位:百万円)

		前年同期 (連結)	2022/3期 (連結)	増減額
ソフトウェアプロダクト事業	売上高	556	620	63
	セグメント利益	56	54	△2
ソフトウェア ディストリビューション事業	売上高	968	1,188	219
	セグメント利益	△154	△74	80
ソフトウェアサービス 事業	売上高	380	388	7
	セグメント利益	102	100	△2

コロナ禍で変化が顕在化したビジネス環境への対応

Connecting the Future



Ubiquitous AI Corporation

Re-innovation

強みを認識し、視点を変える

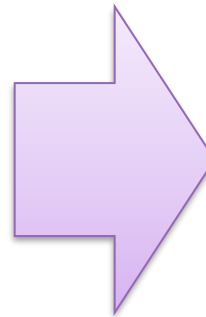
「自社の強み」の再認識

実装技術

取引先数

取扱製品

Brand



変化に対応した拡販施策見直し

Web拡販強化

ソリューション

組織力強化

営業部門強化

トピックス

Deeplite社と販売代理店契約を締結、DNNモデル自動最適化・圧縮ソフトウェア「Neutrino™」提供開始（1/13）

最適化工程を6か月から数日に短縮

DNNモデルをオンプレミス環境で自動最適化し、開発効率を改善

■ 提供開始の背景

- 機械学習やディープラーニングに関わるAI開発や研究の進展
- モデルの最適化には煩雑な試行錯誤、膨大な時間と人的コスト、コンピューティングリソースが必要
- IoT/エッジ機器向けのAIアプリケーション開発では、精度を保ったままのDNNモデルの最適化や低消費電力など、さらに多くの要求が発生

■ 「Neutrino™」の主な特長

- トレーニング済みのDNNモデルとデータセットを設定するだけで、AIエンジンが自動的に精度(正解率)を保ったまま最適化を実行するため、開発コストの大幅な削減を実現
- オンプレミス環境用のため、自社内で使用が可能



<「Neutrino™」使用イメージ>

チームAIBODと資本・業務提携 (2/26)

製造業向けにAI開発から導入支援、教育まで
幅広い製造業向け製品・サービスを提供

■ 提携の背景

- 製造業におけるAIを活用した業務改善・自動化・効率化、IoTの普及に伴うエッジAIの利活用によるインテリジェントなIoT機器開発の更なる拡大

■ 今後の展望

- 製造業を中心とした当社顧客に対してチームAIBODの製造業向けAIソリューションを展開し、より多くの製造業のDX推進に貢献



<連携イメージ>

車載ECUソフトウェア開発向けシミュレーションツール 「GSIL」販売開始（3/24）

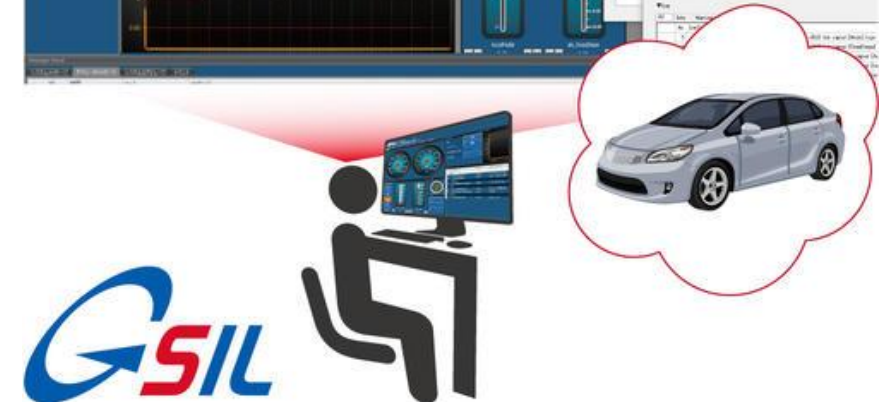
ハードウェア完成前にPC上でECUソフトウェアを検証
SILS/HILSの連携でテスト効率を大幅に改善

■ 開発の背景

- 当社の ECU ソフトウェア開発支援の経験と、エー・アンド・デイ社の長年の ECU 計測ハードの開発、サポート経験を活かして開発
- ハードウェアが完成する前の段階でのECUアプリケーションのデバッグ、検証に対するニーズ

■ 「GSIL」の主な特長

- 仮想ECU半自動生成による容易な環境構築(最短数日～)
- HILSでのテストケースの再利用が可能
- パフォーマンス、タイミング検証が可能
- 顧客ニーズに合わせた柔軟なライセンス体系（モデル流通、リモートワークに対応可能）



<GSIL利用イメージ>

Appendix

2021年3月期 第4四半期 開示一覧

発表日		プレスリリース
第4四半期	1月13日	■ ユビキタスAIコーポレーションとDeeplite社が販売代理店契約を締結、DNNモデル自動最適化・圧縮ソフトウェア「Neutrino™」を1月13日（水）に提供開始 ～最適化工程を6か月から数日に短縮し、組込み機器向けAIアプリケーションを実現～
	2月26日	■ ユビキタスAIがチームAIBODと資本・業務提携、AI分野での協業で合意 ～ 製造業向けにAI開発から、導入支援、教育まで、幅広い製品・サービスを提供 ～
	3月24日	■ 車載ECUソフトウェア開発向けシミュレーションツール「GSIL」を2021年4月1日より販売開始 ～ ハードウェア完成前にPC上でECUソフトウェアを検証、SILS/HILSの連携でテスト効率を大幅に改善 ～

Connecting the Future



Ubiquitous AI Corporation